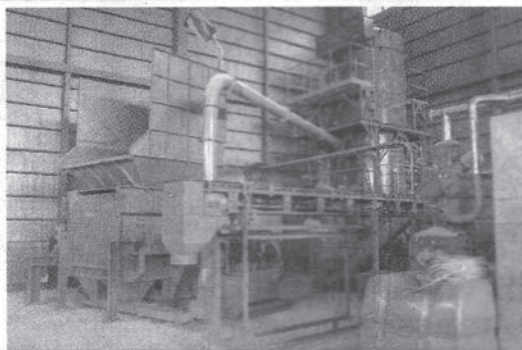


# 札幌市で希少なRPFプラント

## 北清企業 地域のエネルギーとして利用へ

廃石膏ボードのリサイクル事業などを手がける北清企業（札幌市、大嶋武社長、☎011・791・1101）

設置に当たっては、北海道の循環資源利用促進税補助事業を活用、1億数千円を投じて御池鐵工所製のプラントを導入した。大嶋社長は今回のプラント設置について「年々高騰する処分原価の抑制とリサイクル率の向上が目的であり、札幌市



北清企業のRPF製造施設。1日12tのRPF製造が可能

内でRPFの製造を手掛けている企業が1社もなかったことも施設計画を後押しした。資源に変わり得る廃プラスチックなどの素材が処分されることも多く、市内で出た廃棄物を市内で再生し、地域のエネルギーとして利用し、循環の輪を形成したかった」と話す。同施設稼働により、地域内リサイクルの促進、最終処分費用の節減の他、同社の目標とする収集、リサイクル、処分のワンストップ体制に近づけることになる。プラントでは市内近郊で同社が回収した建設廃材を含む産業廃棄物と同業者からの受け入れ産廃が運び込まれ、塩ビ系の素材などが分別され、廃プラスチック、木くず、紙類などを破砕機に投入。磁選機、フィードスクリーンを経てRPF成形機に入り、製品となる。処理能力は1日当たり12t、年間約3500tのRPFが製造可能で、札幌市内のエネルギー供給センターに納入する。

もに歩んできた。今冬、北海道の電力不足により札幌市のホワイトイルミネーションの開催が危ぶまれた件では、北海道バイオディーゼル研究会の代表幹事を務める大嶋社長がBDFでの発電を提案。大通り公園を彩るホワイトイルミネーションの電力の約60%（電球25万個分）を、BDF発電機で供給した。

北清企業は札幌市で40年以上にわたり収集運搬業、処分場の運営、中間処理、廃石膏ボードをリサイクルした白線や廃食油からのBDF製造などを行っている。市内での資源循環を目指し、札幌市と

大嶋社長は「当社は札幌市、札幌市民に育ててもらった企業。今回のRPFプラントの設置を始め、資源循環型社会の構築に寄与することで、市や市民の皆さまに恩返しをした」と話している。



大嶋武社長

は市内にある同社の中間処理施設にRPF製造施設を設置、2012年12月20日に本格稼働をスタートさせた。札幌市ではRDFは製造されていたが、RPFは製造されておら